

第 194 回 日本知能情報ファジィ学会理事会議事録

日時：2013 年 10 月 19 日（土） 15:00～18:30

場所：大阪工業大学うめきたナレッジセンター セミナー室 2

（グランフロント大阪 北館 ナレッジキャピタル タワーC 9 階）

（〒530-0011 大阪市北区大深町 3 番 1 号）

出席者：馬野（会長）、林（副会長）、中嶋（副会長）、乾口（将来構想）、秋山（賞選考）、井上（会計）、関（広報）、徳丸（事業）、星野（電子化検討）、前田（庶務、会誌）、安信（会計監事）

欠席者：佐藤（他学会連携）、工藤（大会事業）、和多田（事業監事）、三河（オブザーバ：編集委員長）

1. 前回議事録の承認（資料 194-0）

第 193 回理事会の議事録の確認を行い、承認された。

2. 理事会メーリングリスト報告済事項の確認

理事会メーリングリストで既に報告されている以下の事項の確認および報告がなされた。

(1) 横幹連合の学会英文キャッチフレーズについて（馬野、前田）（資料 194-1）

- ・馬野会長から事務局からの依頼の横幹連合へ報告する当学会のキャッチフレーズの英文を以下のよう
に決定したことが報告された。ML による審議で意見が分かれたので、馬野会長の意見で最終決定
された。この結果については前田庶務理事より事務局へ連絡する。

Renaissance of Fuzzy Logic

— Challenge to General Uncertainty

（注：2 行目の先頭はハイフン[-]ではなく、長いダッシュ[—]）

(2) 学協会における科学技術研究についてのアンケート調査（馬野、前田）（資料 194-2）

- ・事務局から依頼のあった、未来工学研究所の「学協会における科学技術研究の多様性の確保につ
いてのアンケート調査」に対して、馬野会長が回答することになった。

(3) 名誉会員・特別会員の最終案（林）（資料 194-8）

- ・林副会長から今年度の特別会員は 3 名、名誉会員は 9 名で確定したことが報告された。名誉会員は、
理事経験者を基本条件とするが、過去の学会への貢献度を考慮し小倉先生も名誉会員の候補者とす
ることが報告された。
- ・また林副会長から、今回の決定を受けて、SNS に生年月日を入力するように受賞者にお願いするこ
とが報告され、カラーチップス社には会員更新時に生年月日の入力が必要になるようにシステム変
更をお願いしたいとの意見が出された。

(4) FAN 運営委員会の報告（関）

- ・関理事から、FAN への参画について運営委員長の魚崎先生より SOFT 前理事会からは会員をやめたい
との連絡が突然あっただけで復帰が期待されているとの現状説明があった。
- ・今後の対応として、現理事会で審議する前に、まずは馬野会長から魚崎先生に FAN 運営委員会の雰
囲気を聞いてみることになった。SOFT から理事を出すかどうか、FAN へ復帰するかどうかは様子を
聞いてから理事会で検討することになった。

3. 理事会メーリングリスト審議済事項の確認

理事会メーリングリストで既に審議されている以下の事項の確認と審議がなされた。

(1) ソフトコンピューティング 100 選の名称について (関、林) (資料 194-3 : 当日配布)

- ・表記の名称について議論した結果、SOFT Computing Repository、SOFT コンピューティングリポジトリ、ソフトコンピューティングリポジトリ、の中から理事の間で、メールで投票して決定することになった。本件については関理事から理事会メーリングリストにて後日投票を依頼する予定。

(2) J-STAGE 投稿審査システム利用に関するアンケートについて (井上) (資料 194-4)

- ・井上理事より、J-STAGE からの投稿審査システム利用についてのアンケート依頼があったことが報告された。その中で会員数を報告する必要 (会員数で会費を決定するため) があるが、議決権をもつ会員が規定で明確になっていないため報告ができないとの説明がなされた。
- ・今回のアンケートについては、事務局から毎月報告される会員数を報告することになった。今後の J-STAGE の継続の有無については編集委員会の意向に従うことも確認された。

(3) 事務局との業務委託契約について (井上) (資料 194-9 : 当日配布)

- ・井上理事から、事務局の業務委託契約書の見直しについての提案がなされた。オプション業務に FSS があるが、SCIS が入っていない点など多くの修正点が出され、その可否について議論した。今回は理事会で出された変更点を修正して整形したものを再度 ML で諮って契約を締結することになった。

(4) 事業補助金期中申請について (徳丸) (資料 194-5)

- ・徳丸理事より、前事業委員会では期中申請がほぼ機能していなかったが、今年度は FSS2013 の拡大事業委員会でアナウンスしたところ東海支部から 1 件申請 (15 万円) があったことが報告された。今回の東海支部からの申請は認めることになった。
- ・これとは別に、九州支部の生駒先生からすでに終えた事業の補助金を事後申請できないかとの意見が拡大事業委員会が出されたことが徳丸理事から報告された。この申請事業の開催時期が現理事会の担当期間 (H25 年 6 月以降) でないと承認できないので、とりあえず事業開催時期を調べて現理事会の担当時期であれば正式に申請をしてもらってから理事会で検討することになった。

(5) IFSA2017 の開催場所について (馬野) (資料 194-6)

- ・馬野会長から、2017 年 6 月の IFSA の開催可能性についての打診があり、日本として立候補してはどうかとの提案がなされた。現在のところ、台湾が立候補しているだけで、次回日本での開催が可能なのは関西くらいであるが、前向きに立候補を検討してはどうかとの会長の意見が出された。
- ・日本でのファジィ関連国際会議といえば、1987 年東京で IFSA があり、1995 年横浜で IFES&FUZZ-IEEE が開催されて以降途絶えており、IFSA は約 30 年ぶり。次回は欧州でスペインのマドリッド、次々回はアジアと決まっている。学会の規模は 300 名程度。
- ・林副会長からは、まずは General Chair を決めてから場所等の詳細 (Proposal) を決定すべきとの意見が出された。
- ・審議の結果、日本として立候補することに決定した。IFSA の委員は、林先生、古橋先生、石渕先生が入っているので、これらの先生と理事会から数名 (中嶋理事、前田理事) が加わって組織してはどうかとの意見が会長から出された。

(6) 運営方針に関するアンケート調査 (乾口) (資料 194-7)

- ・会員アンケートの文面について全員で精査を行った。質問形式が統一されていないので、理事会の方針をまず述べてそれに賛同していただけるか、という質問形式にすべて変更すること、追加質問で、支部と研究グループの組織見直しについても意見を聞くことになった。その他、いくつかの文面の修正が行われた。

(7) 理事会 ML でのメール審議について (林、中嶋、前田)

- ・本件については審議の時間がなくなったため、次回送りとされた。

4. 次回理事会について

- ・次回理事会は、11月30日と12月7, 14, 21日の候補日について会議室の予約状況と全員の予定を加味して日程調整を行なうことになった。